

# 令和2年度 施政方針

## 安全・安心に暮らすことができる



## 「あつたか協働都市」を目指して

市議会第一回定例会が2月25日から3月18日まで開かれ、篠原実市長が施政方針演説を行い、令和2年度に取り組み重要施策について述べました。その概要をお知らせします。

### 重要施策

#### 防災力の強化

近年全国各地で発生している大規模豪雨災害や、近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備え、

市全体の防災力の向上を図るため、現在、消防本部に設置している「安全・危機管理課」内の防災業務を市長部局に移管し、新たに総務部内に「防災まちづくり推進課」を設置し、災害に強いまちづくりを推進します。

具体的には、各地域の実情に応じた避難所運営マニュアルの作成支援を行うとともに、自主防災組織を始め学校や公民館、企業、関係団体などと協力して、大規模災害時に重要となる「共助」の取り組みを促進し、地域防災力の強化に努めます。

さらに人命保護を最優先に、社会機能の維持、被害の最小化、迅速な復旧復興を目的とした「四国中央市国土強靱化地域計画」を策定するほか、防災体制の強化や職員の役割の明確化などにより、災害対応力の一層の向上に取り組みます。

また、長期間に及ぶ避難所生活におけるトイレ不足を解消するため、より機能性の高い移動設置型トイレとしてトイレトレーラーを導入します。大規模災害発生時には緊急用トイレとして活用するほか、災害時応援協定などに基づく被災地への派遣や、平常時には屋外イベントなどにおいて防災意識の啓発に活用します。



▲導入予定のトイレトレーラー

#### 地域産業の振興

住工分離及び企業用地の確保を主たる目的として、城山下臨海土地造成事業に着手します。当事業は、南海トラフ巨大地震の減災対策としても、早期実現に向け取り組みたいと考えています。

また、本市産業の海上輸送拠点である三島川之江港については、荷役効率性の向上を目的に、新たな荷役機械の設置が、県において決定されました。

しかし、依然として一部の施設における非効率的・非安定的な荷役実態や、既存ストックの老朽化が課題として残されており、本市産業の持続的成長はもとより、大規模災害時に重要な復興拠点となるため、三島川之江港の整備促進に引き続き取り組みます。

#### 福祉サービスの向上

入所者の安心・安全の確保や基本的人権の尊重、障がいの重度化・高齢化の対策が急務となっている「太陽の家」については、3年程前から専門家を交え、施設更新に関する本格的な議論を進めてきました。今後は、そこに示された方針の具現化に向け、市の西部地域において、日常生活の利便性を考慮した移転候補地の選定に向けて更に議論を深め、令和2年度中の個別施設基本計画の策定を目指し、関係機関との調整・連携を図ります。

また、障がい福祉については、第6期障がい福祉計画を策定し、障がい者などが地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、新たな成果目標とサービスなどの提供体制の整備方針を定めます。



篠原 実 市長

市民生活の安全・安心の確保

新たな中核病院の建設については、現在、公立学校共済組合が、三島医療センターの耐震調査や周辺の地盤調査の準備に取り掛かっています。本市としても、アクセス道路における液状化対策などの調査を行っており、早期建設に向けて、できる限りの支援を行いたいと考えています。

また、市内交通ネットワークの基盤道路として、市民生活の向上と産業発展に必要な国道11号川之江三島バイパスは、国土交通省において測量及び調査設計が行われており、早期の全線開通に向け、引き続き関係機関と協力して事業推進に取り組みます。

また、嶺南地域の皆さま方や各会の代表者と要望活動を行っている新法皇トンネルの整備については、早期事業化に向け要望活動を継続します。

また、施設や管路の更新時期を迎えている水道事業については、令和3年度から10年間で対象期間とする「水道事業ビジョン」を策定し、市民生活に必要な水道水を今後も安定して供給するため、施設や管路の更新計画や更新に必要な財源となる水道料金の将来像などを示したいと考えています。

教育環境の充実

令和3年4月の開校に向けて準備を進めている新居浜特別支援学校分校については、今年度、三島小学校北校舎の改修が予定通り完了し、今後、分校部分を含めて東校舎の改修などを進めながら、並行して施設の維持管理などについて県と協議します。開校と同時に、その分校と三島小学校両校が教育活動を円滑に行えるよう準備を進めるとともに、開校後は特別支援教育のセンター校として、市内各小中学校とも連携し、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育（注）を推進します。

また、国のGIGAスクール構想の実現に向けた小中学校の施設整備について、高速大容量のネットワーク環境の整備を行い、児童・生徒の教育環境の充実を図ります。

注 障がいのある子どもと障がいのない子どもが、共に教育を受けること



▲GIGAスクール構想実現後のイメージ

拠点施設の整備

まちづくりの核となる公民館整備については、「ふれあい」「学び」「憩い」「賑わい」を基本コンセプトとした金生公民館が、4月の供用開始に向けて、最後の移転準備を進めています。



▲金生公民館

また、文化振興の拠点施設となる歴史考古博物館・高原ミュージアムは、本市初の本格的な博物館として、4月11日の開館に向けて最終的な展示環境整備を行っています。開館記念展示として、四国中央市の原点「宇宙」を示す「馬評（うまひょう）」の文字が刻まれた岡山県立博物館所蔵の須恵器のほか、市内の遺跡からの出土品など、本市の歴史を知ることができる数々の貴重な資料を展示・公開しますので、市民の皆さまにはぜひご来館の上、本市の歴史と文化を学んで頂きたいと考えています。



▲歴史考古博物館・高原ミュージアム

その他の取り組み

市の公式ホームページ再構築事業として、ホームページを一新し、本市の魅力や特色をより効果的に市内外へ発信するとともに、機能の充実など利便性の向上を図り、利用者が必要とする情報を提供できるようなホームページを作成します。

また、多文化共生事業として、本市在住の外国人が増加し続ける中、急増する日本語教室の需要に対応するため、現在実施しているボランティアによる少人数教室とは別に、日本語のスクール型教室を開講します。

また、新宮地域が対象地域となっている過疎地域自立促進計画については、著しい人口減少により、さまざまな課題を抱える当地域の事業促進を目的として、令和3年度以降の事業計画の策定に取り組めます。

むすび

新年度は、第2期四国中央市まち・ひと・しごと創生総合戦略の初年度を迎えます。子育て環境の整備や地域愛をもった若年人材の育成、関係人口の創出・拡大事業など、本市の地域課題に即した地方創生事業を、産学官を始めとした関係機関との連携強化により取り組むたいと考えています。